

●全国高等専修学校協会 教職員研修会

10月14日、東京都・アルカディア市ヶ谷を会場として、全国高等専修学校協会の「平成27年度教職員研修会」が22名の参加者を得て開催された。

清水信一会長、岡部隆男研修委員長が開会あいさつを述べ、第1部「後期中等教育のセーフティネットと『不平等の連鎖』—高等専修学校が直面する2つの課題—」をテーマに伊藤秀樹東京学芸大学教育学部講師をテーマに講演。まとめとして、高等専修学校では全日制下位校と比べても、生徒たちを進路決定に導いている傾向にある（「不平等の連鎖」を断ち切る可能性を秘めている）。ただし、生徒たちを「不平等の連鎖」につなげてしまうような「そもそも入学できない」、「継続が難しい進路に進まざるを得ない」という2つの問題を解決しないといけない。

続いて、第2部「高大接続システム改革会議「中間まとめ」—高等学校基礎学力テスト（仮称）について」をテーマに、廣野宏正文部科学省初等中等教育局教育制度改革室専門官が講演。新たな時代を生きる子供たち一人一人に必要な能力＝「学力の3要素」（①十分な知識・技能、②それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力等の能力、③これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）。こうした能力を初等中等教育から大学教育まで一貫して育てていくため、「高等学校教育」「大学教育」「大学入学者選抜」の一体的な改革に取り組む。その中で、高校生が身に付けるべき基礎学力の確実な育成に向けて、高校段階における生徒の基礎学力の定着度を把握及び提示できる仕組みを設けるため「高等学校基礎学力テスト（仮称）」を検討していると説明。出席者と質疑応答を行った。